

1 本時の位置（全 時間扱い中の第 1 時）

次時…布を使ったから縫いを行い、ミシンの名称を覚える。

2 本時の主眼

手縫いを楽しんだ子ども達が、ミシンの特徴を考える場面で、手縫いとの違いを比較したり、ミシンを使ってみたりすることを通して、ミシンの安全な使い方やミシンの特徴が分かる。

3 安全面の配慮

・ミシンを不安定な場所に置いたことによる事故を防ぐために、ミシンを置く位置を指導する。

・ミシンで縫うときの速さは、はじめはゆっくりにする。また、ミシンを目の前に置いたとき・はずみ車を回す時には針付近に手を置かないよう指示し、から縫いするときは、手が巻き込まれないようにどこに手を置けばよいか伝える。

4 本次の展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
導 入 ／	1 夏休みの手縫いの宿題を振り返る。	・小物を作った。 ・並縫いをした。 ・ミシンで作品を作ってみたい。 ・便利だからかな。	5	○児童が行った縫い方を黒板に書き出し、ミシンに対する意見があれば、とりあげる。 ○ミシンに対する意欲を持てるよう、他学年の児童がミシンで作ったエプロンやティッシュケースを提示する時間を設ける。
	2 ミシンについて考える。	・「ミシン」という人名かな。 ・「machine」だとは知らなかった。 ・服を作ってみたい。 ・エプロンが作れそうだな。 ・ミシンがなぜ使われるか知りたいな。		○ミシンに対して興味を持てるように、「ミシン」の名前の由来についてクイズをする。 ○ミシンに対する個人の思いを持てるように、発問をする。 「ミシンを使って、何を作ってみたい？」 ○「手縫いでも作れるのに、どうしてミシンが使われているのかな？」
	ミシンの特徴を考えよう			
	3 どのよう に使うか 考える。	・運ぶときは、ミシンの下を両手で持たなければいけないな。 ・縫うときは手元を見るのかな。	5	○ミシンを使うときのルールを考え、確認できるように、ルールを模造紙に掲示し、クイズをする。
手縫いとミシン縫いを比較したり、ミシンを使ってみたりすればよさそうだ				
展 開 ／ 終 末	4 ミシン縫いの特徴や縫い方を、手縫いと比較して考える。	・2人(3人)一組でミシンを準備する。 ・ミシンを見ると、上糸と下糸の2本の糸で縫ってあるな。 ・まっすぐ、丈夫に、速く縫える。 ・ミシンは機械で、手縫いは手を使う。 ・手縫いの方が温かい感じがするから、贈り物に適しているな。	10	○「ミシンを使うと、どんな風に縫える？」 ○「ミシンと手縫いの違いにはどんなことがあるのかな？」 ○ミシン縫いについて考えられるよう、着ている服やハンカチなどミシン縫いのぬい目を観察する時間を設ける。 ○ミシンを見ながら考えられるよう、ミシンを準備する時間を設ける。 机の列ごとに順番にミシンを取りに行くよう伝える。 ○はずみ車は針を動かすものだから、はずみ車をいじりながら針の近くに手を置かないように注意する。
	5 ミシンと手縫いの縫い目の仕組みの違いを考える。	・並縫いは前回の授業で縫ったから分かるな。 ・上糸と下糸の2本の糸で縫ってある。	5	○手縫い(並縫い)とミシン縫いのぬい目を比較できるように、ミシン縫いのぬい目の断面図の拡大画像を提示し、それぞれを板書する時間とワークシートに記入する時間を設ける。
	6 「まっすぐ縫う」というテーマに沿って、紙から縫いを行う。	・二人一組になって行う。5人班の場合 は3人で一組。 ・プラグをコンセントに差し込みセットする。 ・動画を見て手順を知る。 ・テーマをクリアしたらペアと交代する。	20	○「適度な速さ」を考えることにも繋がる、「まっすぐに縫う」をテーマにから縫いをすることが出来るよう説明する。 ○から縫い用の紙を配布する。 ○ミシンのルールを守って取り組むよう伝える。 ○ミシンの図を黒板に掲示し、から縫いの手順を説明する動画を事前に撮影し、見ながら説明する時間を設ける。 ○実際に使ってみて、振り返り、怖かったこと、気を付けたいこと、ルールに付け加えたいことがあるか、学習カードに記入し、発表する時間を設ける。
				評価：ミシンの安全な使い方やミシンの特徴が分かる 評価方法：作業に取り組む様子と学習カードへの記入の様子から